

生成 AI の利用ガイドライン

【学生版】



オンリーワンを、一人に、ひとつ。

《目次》

1. はじめに.....	2
2. 本ガイドラインの目的.....	2
3. 生成 AI の活用推奨.....	2
4. 基本原則.....	2
5. 利用ルールと申告義務.....	3
6. データ入力および生成物利用の制限.....	3
7. 教職員による活用と指導.....	3
付録：生成 AI 利用に関する実践ガイド.....	4

《改訂履歴》

2023 年 9 月 1 日	2023 年度版新規作成
2024 年 4 月 1 日	2024 年版改定（暫定版）
2026 年 7 月 15 日	暫定版を改定 学生版とする

1. はじめに

生成 AI は、私たちの学修や研究の効率を飛躍的に高め、アイデアを広げてくれる強力なパートナーです。大学はこの新しい技術を禁止するのではなく、みなさんが「自立した学修者」として主体的に、かつ責任を持って使いこなすスキル、AI リテラシーを身に付けることを推奨します。

ただし、生成 AI は万能の道具ではありません。出力された情報には誤りが含まれる可能性があり、使い方を一歩間違えれば他社の権利を侵害したり、あなた自身の重要な個人情報が流出したりするリスクをはらんでいます。

本ガイドラインでは、大学が管理している「大学アカウント」でのルールに加え、みなさんが日常的に利用する「個人アカウント」での適切な向き合い方を整理しました。

「AI に使われる」のではなく、「AI を使いこなす」ために、何が安全で何がリスクなのかを正しく理解し、自らの知性を磨く道具として実りある活用をしてください。

2. 本ガイドラインの目的

生成 AI は、文章生成、検索、要約、翻訳などの機能を持ち、すでに社会の情報インフラとなりつつあります。そこで、本学では、生成 AI を「思考の代替」として一律に禁止・制限するのではなく、「思考を補助するツール」として適切に利用することを推奨します。一方で、生成 AI への過度な依存や学修者自身の施行や試行錯誤を省略するような安易な使用は、学びの本質を損なうおそれがあります。

本ガイドラインは、学生の皆さんが、大学教育の目的に照らし、責任ある利用者として生成 AI を活用するために必要な事項を解説したものです。

3. 生成 AI の活用推奨

本学は、安全性が確保された環境での主体的・積極的な AI 活用をサポートします。学修において生成 AI を利用する際は、原則として大学が提供する生成 AI サービスを大学のアカウントで利用してください。個人アカウントに比べデータ保護レベルが高く、入力データが学習に再利用されない設定が適用されているためより安全です。

大学アカウント（共通アカウント）で利用できる生成 AI サービスは以下のとおりです。

- ・ Google Gemini、NotebookLM
- ・ Microsoft Copilot Chat
- ・ Adobe Firefly ※教室 PC のみで利用可能

このリストに載っていないサービスは、大学アカウント（共通アカウント）では利用できません。

4. 基本原則

利用にあたっては、以下の 3 つの原則を遵守してください。これらは、学修目的での利用か個人利用かを問わず、生成 AI を利用するあらゆる場面で常に守るべきものです。

① 主体的思考の原則

生成 AI の出力をそのまま提出物にすることは認められません。分析、考察、結論は学生自身の判断で行ってください。

② 透明性の原則

生成 AI を利用した場合は、その事実を明示し、利用方法や範囲が第三者に分かるようにしてください。

③ 検証責任の原則

生成 AI は誤った情報を生成する可能性があります。生成された内容の正確性や妥当性については、利用者自身が確認し、最終的な責任を負うものとします。

5. 利用ルールと申告義務

利用にあたっては、各サービスの利用規約を遵守してください。

また、レポートや課題で生成 AI を利用した場合、末尾に「使用した AI」と「利用目的」を必ず記載してください。AI への課題の丸投げや AI が生成した文章の無断提出は認められません。ただし、自分で考えた文章をベースにした校正や翻訳の出力は、主体的なチェックを経れば利用可能です。

6. データ入力および生成物利用の制限

利用にあたっては、以下に注意してください。これらは、学修目的での利用か個人利用かを問わず、生成 AI を利用するあらゆる場面で注意が必要です。

① 入力禁止事項

個人情報、他者から秘密保持義務を課された情報は、決して入力しないでください。

② ハルシネーション（AI が事実に基づかない情報を生成する現象）への注意

生成 AI は確率的に言葉を繋げる仕組みであり、内容に虚偽が含まれる可能性があることを認識してください。

③ 権利侵害の回避

生成物が既存の著作物、商標、意匠と類似している場合、権利侵害となるリスクがあります。特に特定の作家や作品を想起させるプロンプト（AI に指示を出すための質問や命令文）の使用は避けてください。

7. 教職員による活用と指導

具体的な利用方針（許可、制限、禁止等）は、各授業の教育目的に応じて教員が判断し、学生に示します。提出物の評価にあたっては、AI 検出ツールに依存しすぎず、課題設計や教員の専門的判断を重視します。利用して良いか迷ったら、授業担当教員に相談してください。

付録：生成 AI 利用に関する実践ガイド

この実践ガイドは、ガイドライン本編で示された「3つの原則（主体的思考・透明性・検証責任）」を、学生の皆さんが具体的に実践するための手引です。

1. 「約款型外部サービス」の理解とリスク



約款型サービスとは

企業が決めた利用規約（約款）に同意して使う、一般公開されたサービスのことです。

現在、広く普及している生成 AI サービスは、約款型外部サービスに該当します。



最大のリスク

皆さんが入力したデータは、AI を賢くするための「学習材料」として再利用される仕組みになっています。**入力した内容は皆さんの手元を離れ、AI サービスを提供する企業のサーバに保管され、再利用されます。**



対策：大学アカウント利用の推奨

大学が提供する共通アカウントでログインして利用するサービスは、個人アカウントに比べて入力データの保護レベルが高く、学習に再利用されない設定が適用されているため、より安全に利用できます。原則として、個人アカウントではなく大学のアカウントを使用してください。



鉄則：入力厳禁の情報

学習に再利用されない設定が適用されているサービスであっても、以下の情報は絶対に入力しないでください。

個人情報：自分や他人の氏名、住所、電話番号など

他者の秘密・著作物：他人の文章（無断入力）や、秘密にする約束で預かっている情報

「世界中の人に見られても困らない情報」だけを入力する

2. 「検証責任」のための一次情報確認リスト

AIは、確率的に「もっともらしい文章」を作るため、嘘（ハルシネーション）を答えたり、架空の文献をでっち上げたりすることがあります。そこで、以下に示すような方法で、必ず「根拠や裏付け」を自ら確認してください。

確認したい内容	推奨される確認方法・データベース（例）
事実・数値の裏付け	e-Stat（政府統計の総合窓口）にある各種白書の一次データと照合する。
文献の存在・内容	本学学術情報センターの蔵書検索（OPAC）や、CiNii Research、Google Scholar 等で、実在する文献か、著者が正しいかを確認する。
商標・デザインの権利	ロゴや名前を使う際は、J-PlatPat（特許情報プラットフォーム）等で他者の登録商標や意匠を侵害していないか調査する。
著作権の類似性	生成物が既存の作品に似ていないか、インターネット検索や画像検索等で自己点検する。
著名人の事実関係	本人の公式サイトやプレスリリースなどの一次情報と照らし合わせる。

3. 生成 AI 利用の「透明性」確保のための申告

レポートや課題、卒論等で生成 AI を利用した場合は、文章の末尾に以下の形式で必ず申告内容を記載してください。

（記載例 1：テーマの壁打ち・文章の推敲で使った場合）

【AI 利用申告】

使用した AI： Microsoft Copilot

利用目的： 論文のテーマ検討（アイデア出し）、文章構成の整理、および自筆文章の表現修正・誤字脱字のチェック。

自己検証の実施： AI との対話を通じて得たアイデアはそのまま使用せず、必ず学術論文および専門書にあたって理論の妥当性を確認した。また、AI が出力した文章表現については、自身の意図と乖離がないか全件自力で読み合わせ、修正・推敲を行っている。

（記載例 2：海外の文献調査や翻訳で使った場合）

【AI 利用申告】

使用した AI： NotebookLM

利用目的： 英語の先行研究（文献 PDF）の要約作成支援、および専門用語の翻訳・解釈の補助。

自己検証の実施： AI が作成した要約および翻訳の正確性を検証するため、本学学術情報センターの蔵書検索（OPAC）を用いて実在する一次文献（原著論文）を特定した。AI の誤訳やハルシネーションを防ぐため、該当する重要箇所はすべて原文と照らし合わせ、著者の主張に相違がないことを自ら確認済み。

4. 点検ツール利用の際の注意点

意図しない権利侵害を防ぐための「自己点検」として剽窃チェックツールの活用は有効ですが、ツールの利用にも注意が必要です。

個人情報の送信禁止

剽窃チェックツールは意図しない権利侵害を防ぐために非常に有用ですが、ファイルをアップロードする際は「個人情報」がテキストに含まれていないか必ず再確認してください

ツールの限界

剽窃チェックツール・AI 検出ツールは 100% 正確ではありません。AI 検出ツールもまた AI だからです。ツールでの判定結果よりも、皆さんが「どのように一次資料に当たり、どう考えたか」というプロセスが重視されます。

5. その他

本ガイドラインは、技術の進歩や新しい信頼できるデータベースの登場に合わせて、適宜更新されるものとします。